

# 「夢のある新しい学校をめざして」

笹川地区における新しい学校づくり

(日本語版)

教育委員会では、笹川東小学校・笹川西小学校の統合も考えながら

「笹川地区における新しい学校づくり検討会議」を作り

夢のある新しい学校づくりについて話し合っています。



## 四日市市学校規模等適正化計画

少子化や学校規模の格差の拡大など、現在の学校の教育環境をもとに、適正な学校規模や学校の場所について、四日市市の基本的な方針をまとめた計画。平成19年6月に策定。平成24年度以降は、毎年改訂している。

適正化を進める必要がある学校については、各学校の状況に合わせて、保護者、地域住民、学校関係者等とともに、これから学校の教育をどのように充実させていくか、話し合いを進めています。



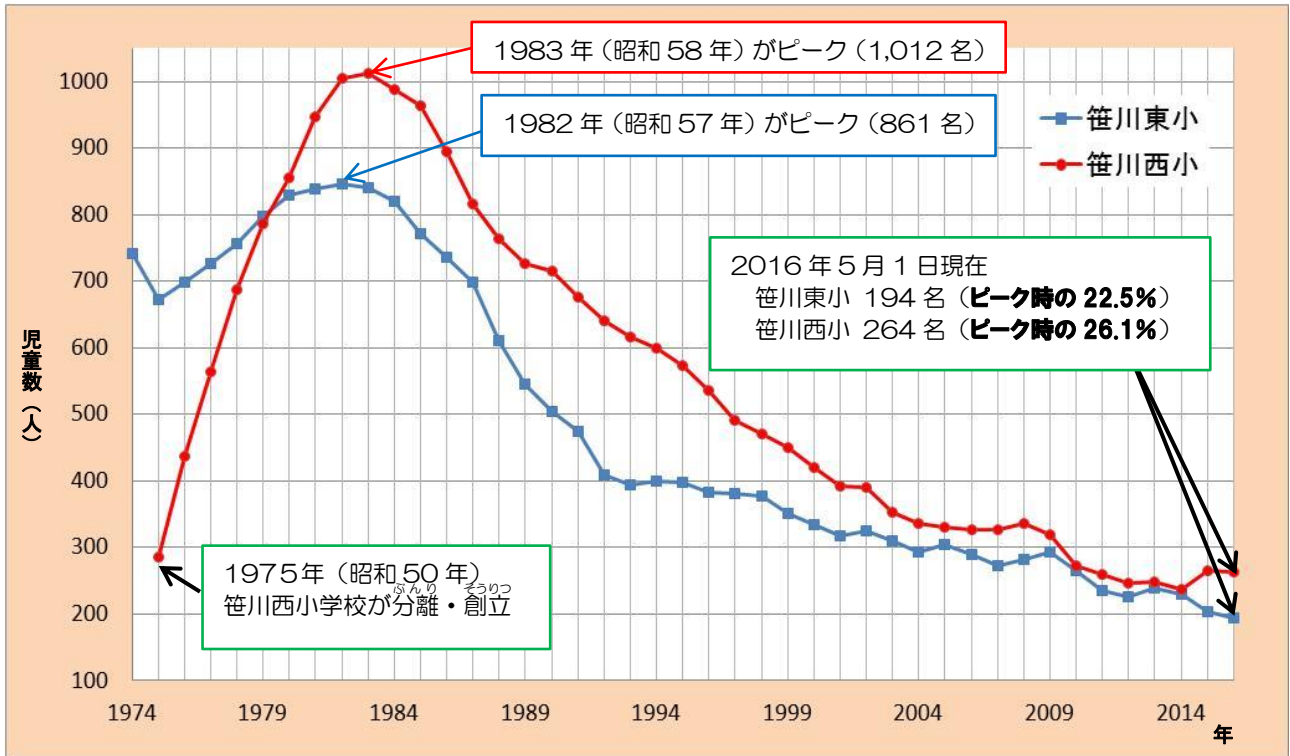
# 1

## 児童数の減少と学校の小規模化

笹川地区の笹川東小・笹川西小は児童数が減り、1つの学年に1つの学級が増えています。これから10年間のデータを見ると、児童数はさらに減っていく予定です。

### 学校の小規模化が進むとどうなるか

- 運動会の集団種目など、人数がたくさん必要な活動が難しくなります。
- 教員の数が減り、教員ひとりの仕事が増えて余裕がなくなります。
- クラス替えができず、人間関係が固定化・序列化する可能性があります。



ひびきの学校になることで教育活動の一層の充実が図れます



# 2

## 子どもの4人に1人は外国につながりがある

笹川地区の小学校では、4人に1人が外国にいろいろなつながりを持つ子どもです。国際色豊かな環境で学ぶことができる一方で、日本語指導が必要な子どもには、サポートが必要になります。



### 困っている例

- 生活で使うレベルの日本語は習得していても、授業で使用する言語の習得がむずかしい
- 保護者自身が日本語を話せなかったり、保護者が子どもとふれあう時間が少なかったりするため、日本語や家庭学習が定着しにくい

適正な学校規模になると

# 教育活動が豊かになる

クラス替えができる人数になると  
新しい環境を作ることができる

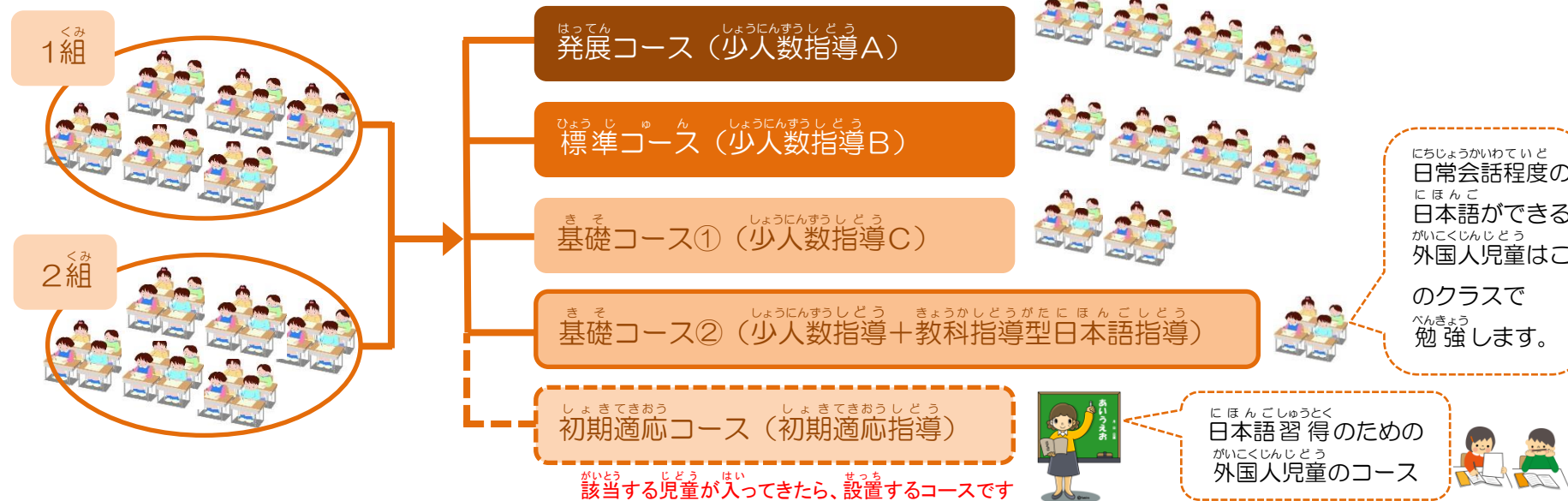
1学年2クラス～3クラスになり、クラス替えをして新しい学習環境づくりが可能になります。学年の人数が増えると、競い合いが生まれて、さらにはがんばることができます。

小・中学校の連携教育がスムーズになる

統合して1小学校1中学校になると、子どもの9年間を見通した連携教育がよりスムーズになります。小学校と中学校との交流が増えて、中学入学時のストレスが減り、英語教育の充実なども期待できます。



きめ細かい指導が可能になり、学力や学習意欲が高まる（↓習熟度別の少人数指導の一例）



教職員に余裕が生まれ、日々の教育活動が充実する

教職員の人数が増えると、ひとり当たりの仕事分担は減り、子どもに接する時間を増やすことができます。

多文化共生の環境を生かして

# 国際感覚が豊かな笹川っ子に

「ちがいに困る」状態から「わかり合えて楽しい」毎日へ



文化の異なる子どもが共に学んでいる  
ことは笹川地区の長所である

多様な個性や意見に出会う機会が増えるため、社会性やコミュニケーション力が育ちます。国際感覚あふれる子どもが育つことは笹川の強みです。



私には、自分になかった素晴らしい考え方や生活様式を教えてくれた外国の友達があります。

私には、卒業してからも困ったときに助けてくれる日本の友達があります。



多様な文化や生活習慣を持つ仲間が、同じ小・中学校で9年間を過ごすことは、自分が住むまち「笹川」に愛着を持つことにつながります。

# 新しい学校づくり検討会議とは



笹川地区の学校の課題を解決し、子どもたちの学習環境を良くするため、平成28年1月に、笹川地区における「新しい学校づくり検討会議」を作り、夢のある学校づくりについて話し合いを重ねました。

## 笹川地区における新しい学校づくり検討会議（平成28年1月～）

### ●検討会議の委員

- ・笹川地区連合自治会役員
- ・笹川子ども教室運営委員
- ・笹川地区の市立幼稚園、保育園、小学校、中学校のPTA等関係者
- ・四日市市教育委員会事務局
- ・笹川地区協議会役員
- ・笹川学童保育会代表
- ・笹川地区の市立幼稚園、保育園、小学校、中学校の校長は参与として出席

### 検討会議で話し合ったこと

#### こんな学校を作りたい

- この地区の子どもが通いたくなるような学校づくりをしたいです。
- 平成30年代後半の子どもの減少に対応できる学校づくりをしていきたい。
- この地域の教育は充実していると思う。他の中学校へ入学する人が増えないように工夫を！



#### 学校づくりを考える上で大切にしていきたいこと

- 10年後を考えて検討しないと、人口の動きについていけない。
- 市内で行った学校の統合の例を参考にしたい。
- 外国人保護者を招いて学校の未来を話し合う場があってもよいのでは？



今後、外国人保護者対象の説明会などを開催していきます。



教育委員会

### 心配な点

- 統合のあとも、今の笹川の教育が維持できる先生の数を保障してほしい。

- 統合後の通学路の安全対策も考えるべき。
- 笹川中央通りの横断が心配です。

今の教育の質を維持できるように、先生の数や適応指導員の人数をできるだけ確保します。



教育委員会

統合準備委員会がスタートしたら、具体的な安全対策を話し合います。

# これからの 取り組み



このリーフレットをよんだ保護者、地域の皆様からいただく意見や心配ごとを参考にして、課題とその解決方法について話し合いを進めます。

学校づくりの手段・方法について一定の理解が得られたあと、新しい学校づくり検討会議の役割を統合準備委員会に移して、統合に向けて具体的な内容を検討していきます。

現段階

笹川地区における新しい学校づくり検討会議 第1回～第6回

リーフレット配布、意見集約

皆様のご意見やご心配事などを下記の事務局へお聞かせください

笹川地区における新しい学校づくり検討会議 第7回～

教育委員会において基本方針を決定（統合時期、学校の設置場所など）

統合準備委員会  
統合に向け、具体的な準備をします

たとえば…

新しい校名を考えます。  
新しい校歌、校章、校旗を作ります。  
新しい通学路の安全確保を検討します。

両校の交流授業・行事



通学路の安全の確保、施設の改修、学校の組織やPTA組織の統合

閉校行事、引っ越し

統合



発行 笹川地区における新しい学校づくり検討会議  
平成29年1月

【事務局】 四日市市教育委員会 教育総務課 政策グループ

四日市市諏訪町1番5号 四日市市役所9階

電話 059-354-8237（直通） FAX 059-354-8308

Eメール kyouikusoumu@city.yokkaichi.mie.jp